

令和4年度 第2回 福岡市立学校通学区域審議会 議事要旨

1 日時 令和5年1月31日(火) 13:00~13:45

2 事務局会場 教育委員会会議室 福岡市中央区天神1丁目8-1

3 議事

諮問 ・元岡地区新設中学校(仮称)の通学区域の設定について

4 出席者 審議会委員 18名

○市議会議員

調委員、山口委員、川上多恵委員、ついちらは委員、福田委員

○学識経験者

高妻委員(会長)、稲葉委員、西山委員(オンライン)、尾石委員、今井委員、吉田委員、川口委員

○父母教師会代表

岡村委員(副会長)(オンライン)、豊澤委員

○学校長代表

西村委員、小野村委員

○教員代表

富永委員

○市職員代表

駒田委員

○事務局

石橋教育長、福田教育次長、江崎教育環境部長、吉安通学区域課長 ほか

5 傍聴者、報道関係者 なし

6 議事録(要旨)

(1) 開会

(2) 教育長のあいさつ

(3) 委員の紹介

(4) 諮問 ・元岡地区新設中学校(仮称)の通学区域の設定について

上記について資料に基づき事務局から説明があり、委員から次の意見等があった。

(委員) 昨年度に設定された西都北小学校の通学区域において、西都小学校区と西都北小学校区と境が一部歪つな形になっており、保護者あるいは地域から質問などがあったと思うが共有いただきたい。

(事務局) 西都小学校と西都北小学校の校区境は西都1丁目、西都2丁目に分けられているが、ここにはJRが通っており、校区境の左側一部が下がっているところ等は、駅の線路から南側の一部が線路をまたいで町の設定が行われ、西都1丁目となっている。

町の単位で町内会活動等も行っていることから、西都北小の通学区域設定にあたっては、町単位で設定することとしていた。

また、西都小・西都北小の境付近に国道 202 号線が通っており、町の途中で国道が通っているという状況になっている。

ここは国道の北側を、西都北小の区域として、国道の南側を西都小としていいのではないかと地域・保護者から協議の中でご意見をいただいたが、町の途中で区域を分けた場合に、子ども会活動や地域活動の関係も含めて支障が出るのではないかとということと、同じ小学校から 2 つの中学校に行くところを避けるべきだという意見が出たため、西都 1 丁目と西都 2 丁目の境で西都北小学校の通学区域を設定し、今回の小学校単位で中学校の進学先を設定するというので、地域の方で意見がまとまった。

(委員) 確認だが、新しい中学校は、西都小学校と周船寺小学校の 2 校からの児童が通学するというのでよいか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) ページ 5 (2) 通学区域の設定に関する地域・保護者との協議経過等の上から 4 番目で、意見募集を実施し、36 名の方から意見があったということだが、どういった意見があり、意見に対してどう対応され、納得されたのかを共有いただきたい。

(事務局) まず 36 名の方からの意見だが、こちらのアンケート自体は周船寺校区、西都校区、元岡校区の全世帯に通学区域のアンケートを約 1 万 7 千通送付し周知を図った。

また、同じように教育委員会のホームページでもアンケートについて周知し、書面やメールで、36 名の方からご回答いただいたところである。

回答の内訳は、賛成意見が 25 名、反対意見が 5 名、選択制にしたらいいのではない意見が 3 名、その他の意見が 3 名。

賛成意見の方は、主に周船寺小学校の校区の方が多かったが、西都小の方からもこの案に賛成をする意見をいただいている。

元々の元岡中学校の校区が広く、自転車通学を認めている学校になるが、今回新しい学校ができることで通学距離が近くなり、自転車通学をしなくてよくなるため、歓迎する意見があった。

一方反対の意見に関しては、すべて西都北小校区となるの地域の方からのご意見があった。

特に、西都北校区の駅の南側など、距離的に新設中学校の方が近い住所にお住まいの方もおられたこともあり、学校までの距離の問題についてのご意見や、短期間に学校を作って教育委員会の予測が甘いのではないかとのお叱りの言葉も含め、ご意見をいただいた。

距離の問題に関しては、地域全体での安全確保や、通学距離の合理性といった考えで設定をしていることや、選択制についてもコミュニティの関係が難しいということもご説明を差し上げて、委員の方々にはご理解をいただき、今回の通学区域案がまとまったところである。

その意見に対する回答や考え方といった、ご説明差し上げた内容を、会議の資料として、広くホームページに公表して、地域・保護者の皆様にお返しし、また、協議会委員である代表の方々にも、各団体に持ち帰っていただいてこの通学区域になることが協議会として決定したとご説明いただいたところである。

(会長) 参考資料をご用意いただいております、いわゆる経年変化で、今の西都小 3 年生がどの中学校行くのかといった、非常に複雑なグラデーションを含めた説明資料だが、審議会委員の皆様はご理解いただけているか。

特に今の西都小学校の4年生のうち、令和5年度から西都北小に分かれる子どもたちがいる。

この子どもたちが元岡中に入って、最終的には新設の中学校にまた分離するという、いわゆる変更を複数回、経験するといった形となっている。

先ほどご質問があったように、36名からの意見の内訳についての説明が事務局からあったが、この意見を寄せられた方々が、どの児童の保護者なのか、或いはまだ未就学児なのかという、意見を寄せられた側の状況まで、深掘りして分析する必要があるのではないかと思ったりもしたが、1万7千通配布し、そのうちの36名が回答ということ。回答はとても少ない。

また、我が子目線でこういう通学区域に対して意見を寄せられる場合、通常反対意見がとても多いものだが、今回は周船寺小学校区を中心に、賛同する意見が多かったというのは、特徴的なアンケート結果なのだろうと私には読めている。

周船寺小学校の通学区域に居住する児童生徒が、中学校一年生になったときに、どっちの中学校に行くのか、そしてどの段階で新設中学校に変わるのかということについて、該当のお子様や保護者たちの理解が得られたというように私ども理解してよろしいか。

(事務局) 会長からもお話があったとおり、もちろん反対のご意見もあったが、数としてはそこまで大きな数ではなかった。

小学校の新設から、さらに中学校が新設されることで、児童生徒や保護者の方にも負担をかけているところがあり、なるべく意見を聞かせていただき、ご説明をして、ご理解をいただくということが非常に大事だと考えており、ここ数年、西都地区に関しては、地域・保護者の方に西都北小の通学区域の設定の際から継続して説明をしてきたことで、一定反対の声があったとはいえ、ご理解をいただけた方が多かったと理解をしている。

今後、西都北小学校への入学のシーズンになるため、子どもが前の学校に残りたいといったお話など、個別のご連絡を实际いただいているところだが、学校の方でもしっかりケアをしながら進めているところであり、そういった意味での意見のまとめりというのは一定あったと認識している。

(委員) 委員になって日が浅く、基本的な質問になってしまうかもしれないが、通学区域を設定するまでの期間について、設定を決め、地域に周知され、いろいろと審議をしての期間が半年間しかないが、これだけで地域に十分な情報が行き届き、皆様理解された上で、この流れなのか。

今までの新しい校区というか、通学区域の設定をする際の流れなのか。

これが一般的で、この流れで進めているということであれば、一つのやり方だと思うが、ご説明していただくとありがたい。

(事務局) 今回、地域との話については、通学区域協議会を6月に立ち上げ、半年あまりで意見がまとまっているところである。

もちろんこれまで中学校に関しては、分離新設を決定し、どこの用地を中学校にするかといった話を地域の方とは以前から差し上げており、学校用地が決まったので、次は新しい校区をどうするかといった話を、3年前から段階的に行ってきたことで、協議会としてはこの半年間で意見がまとまったもの。

今回、新設中学校は池を埋め立てて作るということで、開校が3年後の令和8年と、時間があるにはあるが、地域の方とはこの半年間で通学区域の話を特にしっかりさせていただいている。

当然、意見がいろいろと分かれば、半年でまとまるとことはなかなか難しいかと

思うが、今回は先ほどのご説明のとおり、地域として意見のまとまりが早かったところもあるため、今回、半年で通学区域案がまとまり、審議をいただいている。

(委員) もう一つ確認したいが、この新設中学校の設置については、やはり地域から要望を上げて、スタートしてきたという経緯なのか。

(事務局) 元岡中学校の生徒が非常に増え、教室も足りなくなってきたといった状況は早い段階から認識しており、教育委員会としても住宅開発の状況を見ながら、新しい学校を作るべきかどうかという検討を行っていたが、そのタイミングで地域の方からも新しい学校を作ってほしいといったご要望があり、特に今回に関しては池を埋め立ててこちらの場所に新設してほしいということについても、元岡中学校区の小学校3校区それぞれの自治協議会・PTAの方から要望をいただき、実際は最終的にその要望も受けて、中学校新設の決定をした流れである。

(委員) 承知した。

(委員) これは教育委員会だけの問題ではないと思うが、この九大学研都市周辺は、非常に児童生徒、それから大学生の通学が多くなっている。それにあたって今後、子どもたちの動きも少し変わってくると思うが、道路整備、或いは歩道の整備について、他の地域に比べもう少し力を入れなくてはいけない箇所かなと思う。

特にたまにニュースで聞くが、車が小学生の列に突っ込んだとかいろいろある。そういうことを考えると、本当に児童生徒大学生まで、とてもこの地区は入り乱れていて、高校生も自転車通学とかあるため、歩道の整備等が必要と思う。歩道と車道の間ポールが立っていたりがよく見かけるが、そういったものを将来的にもっと考えないといけないと思う。

(会長) 今ご指摘の通学路の中で子どもたちの登下校の安全確保というのは極めて大切で、優先順位も第1番目に来るような重要な案件かと思うため、この辺り子どもたちの動きというのが当然変わっていくことは十分予想されるし、高校生だとかの自転車通学の波との距離をどういうふうにするのかについて、もし現段階で想定しているものがあれば、その点の方をお伺いしたい。

(事務局) 確かにこちらの地区は、最近人口が増え、児童生徒の数も増えている中で、九州大学をはじめとして、周船寺小学校の南の方に筑前高校があり、また西都北小学校の周辺には舞鶴高校があるなど、学校が集積をしている。

そういったところで、自転車通学による通学も非常に多く、先ほども申し上げたとおり、元岡中学校自体の校区が広く、自転車通学を認めている学校であるため、周船寺周辺や九大学研都市駅周辺においても、通学路の安全を確保していかなくてはならないと、今回の通学区域の協議の中で、地域からも意見をいただいたところである。

この通学区域が正式に決まれば、どの小学校の子がどこの中学校に行くのが確定をするため、来年度に開校準備委員会を立ち上げ、その中で新しい学校の校歌、校章、校名といったところを決めていき、併せて通学路の決定と通学路の安全確保、或いは道路の改良を含めた安全対策を進めることとしている。

地域の方から、中学校の周辺が商店街で、少し通りが狭いところもあるといった、具体的に今の段階でこの辺りが危ないのではないかというご意見もいただいております。我々も把握をしているため、道路の関係の整備を所管する西区役所や警察とも協議をしており、具体的な安全確保の実施は来年度から進めていくこととしている。

(委員) 元岡中学校の生徒数が今年度は1,051名で、新設中学校ができる前の令和7年度までに100人ほど増えると推計されているが、元岡中学校の教室は足りているのか。新設中学校が出来るまでに、元岡中学校の教室が足りなくなるということはあるか。

(事務局) 元岡中学校は、現在 35 学級になっており、過大規模という状況であるため、校舎の中の教室は既に足りなくなっている状況であり、学校敷地にプレハブの仮設校舎を設置し、教室を確保している。

元岡中学校では、幸いにして学校の校地面積が 3 万平米と非常に広い学校であり、グラウンド側ではなく北側の体育館の周辺など、設置をできるスペースがあるため、学校活動に支障がない形で教育環境を確保している。

ただ開校が令和 8 年であるため、令和 7 年度までもう 100 人程度増加し、37 学級程度になると見込んでいるため、そこまでは仮設の校舎を設置することで、対応ができる状況であり、開校後速やかに、仮設校舎を撤去し、もとに戻すという段取りで考えている。

(委員) 通学区域に直接的ではないことだが、今の西都小学校の特に 5 年生について、令和 5 年度 6 年生の最後の小学校生活 1 年を二つの小学校に分かれてしまうということが非常に心配であり、子どもたちの心理面など、様々なケアサポートが必要と思うのと、また両校の交流なども含めて、修学旅行とかも一緒に行きたかったのに、との思いがきつとあると思うので、ぜひ子どものそういった視点に立ったケア等も含め、サポートしていただきたいと思う。

(会長) 付言すると、今の小学校 5 年生が 6 年生の時に西都北小学校に行く子がおり、元岡中に入学し、中学 3 年生の時に、また新設中に分かれるということもあるため、そのあたりの見通しと配慮していることをご説明頂きたい。

(事務局) ご指摘のとおり、特に西都小学校の 5 年生は最終学年で 1 回分かれ、また中学校で分かれるという形になるため、当然、小学校の分離新設にあたっての保護者の方のご意見の中で、例えば卒業アルバムはどうなるのか、クラブ活動がどうなるのかといった不安の声を、開校が決まった時からいただいている。

もちろん学校と連携をして、新しい学校への思い入れといったところもしっかり共有し、子どもたちが不安になって、不登校にならないようにケアをしていただき、開校の雰囲気のようなところも盛り上げて、少しずつ心情を作っていくという状況である。

特に中学校に関しては、福岡市では久しぶりの中学校の分離新設という形になり、部活動がどういうふうになるか等の不安の声も、今回の中学校新設にあたっていただいているところである。

そういったところは、先ほど申しあげた来年度から開催する開校準備委員会の中で、過去の事例も紐解きながら、部活動などをどうしていくか、あとは受験に対する不安も一部聞くため、そういったところもしっかりと対応していき、子ども達が不安にならないよう、解消するような手だてを、積み上げていきたいと考えている。

(会長) いずれにしても開校準備委員会の中に当事者の方々もたくさん参加されると思うので、今想定できないことでもその時になって、また新しい考え方や問題点、課題が出てくることも一部予想されるため、時期を見て協議を進めて頂ければと思う。

(委員) お願いというかコメントだが、先ほど出ていた通学路がやはり気になる。

小中高、大学生、一般人+αで観光客がいて、そうするとソフト、ハード面も含めて、ユニバーサルデザインなどを盛り込みながら、枠を超えるが、まちづくりの大きな視点を、この機会に組み込めるようなチャンスかもしれないと感じている。

あと、子どもにとっていいことというのは、おそらく高齢者の方にとっても安全で住みやすい街になりえる可能性があるということで、そういうところもご検討いただけたらと思っている。

(会長) これもまた非常に重要な視点のため、ぜひお願いする。
もちろん教育委員会の役割の範囲を超えたところもあるため、このあたりはここにいらっしゃる議員の先生方にもぜひご尽力いただければと思う。
それではご意見や確認事項、コメントもいただいたが、諮問いただいた元岡地区新設中学校（仮称）の通学区域の設定について、原案のとおりとしてよろしいか。

(委員一同) 異議なし。

(事務局) 本日は各委員の皆様、熱心な議論をありがとうございました。

最後に1点ご報告になるが、お手元に配布しているアイランドシティ地区新設小学校の開校準備委員会ニュースをご覧いただきたい。

令和4年7月に通学区域の決定についてご議論、ご審議をいただいたアイランドシティ地区新設小学校については、照葉北小学校校区の地域、保護者の代表者などで構成する開校準備委員会において、令和6年度の開校に向けた取り組みを進めており、地域と協議をいたしました結果、令和4年12月に学校の校名案を「照葉はばたき小学校」に決定した。

今後2月に開催される当初議会で小学校設置条例の改正案を上程し、正式に校名を決定する予定としている。

引き続き、こちらも開校に向けた受取り組みを進めていく。

(5) 閉会